

萩ジオパーク：龍が通った道エリア

龍が通った道(文字通り、「ドラゴンが辿った道」)は、北アイルランドのジャイアンツ・コースウェイと地質が似ていることから名付けられました。それは、約 40 万年前、多摩川溪谷を 14km 以上にわたって移動した巨大な溶岩の流れによって作成された。この溶岩流が、伊良尾山をはじめ、畳ヶ淵や龍鱗郷などの柱状節理の傑出した例をはじめ、多くの景観を生み出した。

現在の畳ヶ淵遺跡は、古代火砕流の中間地点に位置し、観光名所として親しまれている。多摩川は溶岩流によってできた独特の岩の間に溪谷を作っている。柱状節理といい、石をはめ込んだように見えるが、自然現象でできたものである。溶岩が冷えて、岩石が収縮して亀裂が入り、6 面の岩石ができたのである。この亀裂によって、まだ冷え切っていない溶岩の中に空気が入り込み、亀裂が深くなり、岩石の冷却を早める。縮んでは割れ、冷やされたは割れというサイクルが続いた結果、現在の六角柱が誕生した。多摩川を 5km ほど下ったところにある龍鱗郷の「龍の鱗」は、柱状節理とも呼ばれる六角柱の立派な例である。この名前は、地元の村の小学生がつけたものである。

アクセス：JR 須佐駅からタクシーで約 20 分

畳ヶ淵 Google マップのリンクは[こちら](#)

龍鱗郷 Google マップのリンクは[こちら](#)